

平成28年4月25日

都道府県臨床（衛生）検査技師会
会長各位
CC：日臨技理事

平成28年度熊本地震災害対策本部
本部長 宮島 喜文

人員支援についてお願い

本日、激甚災害指定が決定し、設置準備室は災害対策本部に自動移行いたしました。
ついては、以下のお願いを申し上げます。

本災害については、対策本部設置準備室として、支援調整委員1名を4月19日に現地入り
させて、情報の収集に努めてまいりました。

・会員施設の状況は、機器・試薬・人員体制面の問題はあるものの、医療活動の継続は可能
な状態と判断されました。

・会員個人の状況については、自宅損傷などで車中泊状態のかたも少なくなく、親族の被災
などへの対応負荷もあり、心身ともに疲弊された状態にあると判断されました。

・被災者全体という面では、依然として昨夜、今朝においても余震が続いており、予断を許
しません。損壊住居の影響で避難所の利用、車中泊の併用などが見られます。この中で、健
康への影響が懸念され、エコノミークラス症候群の検診がメディアの注目も集めています。
現在、東日本大震災で同検診にかかわった有志の検査技師を中心に現地入りしていただき、
2種の活動に臨床検査技師として参加しています。

- ① 国（厚生労働省健康局健康課）に関連し、循環器病学会のもとで熊本大学中心に行う健
康調査としてのDVT検診
- ② 熊本県医療救護調整本部のもとで、市保健所単位の避難所などで行うDVT検診

上記①は将来の災害対策にむけた調査要素があり、早晚終了となるとも思われます。
一方、

上記②は、車中泊による死亡例が報告されるなど、ハイリスクグループのスクリーニングと
いう点できわめて重要な活動であり、車中泊が依然常態化している現状で緊急性の高い活
動といえます。医師、保健師、看護師などとのチーム医療でありながら、下肢エコー検査、
その後の関連検体検査を現場で担当するのは臨床検査技師をおいてありません。

昨夜の熊本県臨床検査技師会幹部を交えた会議で、②の活動の重要性を再確認し、5月8日
までGW期間において、できる限りの活動を展開すること、5月3日から5月5日までの
3日間を「最大行動日」として1,000名のDVT検診に挑戦する目標を確認いたしました。
このためには、

- A. 数名の医師
- B. 数名の保健師または看護師
- C. 10名程度の下肢エコーの経験ある臨床検査技師

- D. 10名程度の関連検体検査（D ダイマー、BNP）や採血のできる臨床検査技師
- E. 数名の会場設営撤収、誘導整理、検査説明、問診などを行う臨床検査技師
- F. 10台以上のポータブルエコーや関連検査用機器・試薬
- G. 人員・機器を移動するための10台程度の車両と運転者

この中で、

Aは石巻赤十字病院植田医師のご尽力で確保されつつあります。

Bは市との連携で確保予定です。

Cの人員がなにより不足しています。貴会内でご参加いただける方はいらっしゃらないでしょうか？

Fは各方面からメーカー協力を打診していますが、貴会内の会員施設から予備機などを持参参加いただけることもありがたい申し出です。

D、E、Gについての篤志のご参加を期待するものです。バンタイプの車両は現地臨床検査卸企業からの供給からも可能ですが、1ボックスタイプの車両が不足しています（地域のレンタカーは車中泊用にすべて貸し出された状態です）。

熊本県臨床検査技師会が、増永会長はじめ幹部のご決意により、被災者でもある困難な状況でも臨床検査技師の使命として可能な限り参画する意思を昨夜お示しいただきましたことに敬服し感謝申し上げる次第です。日帰り参加もできる戦力として期待いたします。

次に、九州支部圏内においても、各県単位に参加者の吟味が進行しています。近隣県では日帰り参加も可能ですが、複数日の宿泊付き参加をお願いしております。

その他の全国地域からも、不足傾向のC分野のご参加を特に歓迎いたします。

熊本県内及び近隣の養成校からは学生ボランティアの参加も予定されています。

今般、過去の震災時に取り組み経験のある臨床検査技師に遠方から各数日の参加をいただき、指導的な立場でそのノウハウを提供いただいております。4月23日から始め5月8日までの期間に、毎日2～3名のご参加予定が確定しています。さらには、ポータブルエコーを携えて遠路参加いただくなど、獅子奮迅の貢献をいただいております。

この指導のもとで「災害時のDVT検診避難所向けプロトコル」といえるものがより多くの方の中に定着することが今回重要です。どこで災害が起きても、迅速に近隣からの支援体制が組めるようになることが求められています。

貴会から1名でも派遣され、この取り組みに参加されることで経験の伝播ができます。この時期を除いてこのような成果を得ることができないと考える次第です。

現地の推進本部は技師会事務所から、ご厚意により熊本保健科学大学のセミナー室に移動しました。現在、学校内でフロア上にマットを敷いて県外からのスタッフは寝泊まりしていますが、私もここに昨夜宿泊させていただき、避難所生活者の方々の苦労の一端を疑似体験いたしました。熊本市外の行動参加者予定者には必要な宿泊環境を用意する所存です。

各位のご理解ご協力を重ねてお願い申し上げます。